

令和4年度 江戸川区立船堀第二小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	○進んで学習する子ども ○思いやりのある子ども ○じょうぶな子ども	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○目標に向かい、子どもも職員も主体的に取り組み、子どもが育つ学校 ○確かな学力が身に付いた児童、豊かな心が育った児童、健康でたくましい児童 ○「子どもの健全な成長」を念頭に置き、自らの職責を果たす教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>学校の組織力の向上 <課題>教職員の指導力(学習指導・生活指導)の向上 新しい教育課題への積極的な取組み		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価	来年度に向けた改善策	
					取組	成果			
いざいど学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主要事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・改善・充実	①教育課題「学力向上」実践推進校として日常的な取組(ベネフィット・補習)、授業改善(指導と評価の一体化)の取組から取組の実施。 ②5,6年生において教科担任制(算数・理科・社会・外国語・図工・音楽・家庭)の実施。 ③年間3回、「江戸川っ子 study week」の実施。 ④一人一台端末を活用した授業、家庭学習の実施。	①ベネフィット診断シートで、学年の達成率を全学年が超える。 ②児童アンケートで「学習がわかる、楽しい」が8割以上。 ③2年間位置づけ確実に実施する。 ④一日の学習で、必ず端末を活用する。家庭学習で「ライブリアリダンス」に取り組んだ児童8割以上	A	B	【成果】 教育課題推進校として、国語科を中心に全教科が授業改善に取り組んだ。教員の意識改革と児童の主体的な学びの方向性が見えてきた。 【課題】 依然として家庭による取り組みに差がある。家庭学習が身に付いてきた児童との差の解消を図る。	・教科担任制は、先生の得意とする分野を教えることにならるので子供たちに分かる授業や興味関心を与えるきっかけになると思います。 ・家庭学習に取り組む際、タブレット等を活用して、できるだけ宿題はあまり負担が見なくても済むように工夫する。	①放課後学習教室・家庭学習について、さらに保護者の理解を得られるよう年度当初説明を学年単位で行う。 ②やってよかった絵二式を見直し、取り組み方が身に付いていない児童の支援を継続して行っていく。 ③個別担任制、算数の即時評価指導等により、①「体力向上月間」を中心に、継続して取り組む。②中休みは、全員が外に出て体を動かすよう、学習の終了、補習、委員会の活動等は行わないようにするとともに、休み時間を5分間延ばし20分間たつぷり体を動かせるようにする。
	体力の向上	・運動意欲の向上に向けた取組の実施・充実	①週1回、朝の活動に運動遊びを実施。 ②運動時間(短縮・異種・着入走)の実施。 ③休み時間の外遊びの奨励。	①計画的に学年で実施100%。 ②児童アンケートで「体育の授業でできるよ」になったことがあるが、8割以上。 ③児童アンケートで「外遊びを遊んでみた、進んで体を動かした」が、8割以上。	A	B	【成果】 通学路にフワーアップタイムを設定したことで毎週10分間の時間に運動遊びに取り組むことができた。 【課題】 高学年が休み時間に外に出ない(出られない)、放課後の運動量の少なさが課題。	・運動の機会が減っている中、継続した取り組みが実施できる状況は効果的です。 ・外遊びの時は「マスクなし」でもよいということで、思各自がチャレンジできるカード等を用意して、子供が進んで取り組める状況作りがよいと思います。	
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	①読書科(教育課程特例校)の実施。 ②江戸川区調べる学習コンクールに全校で取り組む。 ③公共図書館、可書教諭と連携して本で学ぶ子を育てる。	①読書科の年間計画に基づいた指導を実施し、教員アンケートで「本で調べる子の育成を図った」が、100%。 ②可書教諭・図書館可書と連携して、適切な読書活動を実施する。児童アンケートで「本で調べることが楽しい、いろいろなことが分かった」が、90%以上。	A	A	【成果】 読書科を進めるにあたり、学校全体で共通理解を図り、図書館を利用して調べ学習が推進できた。江戸川区調べる学習コンクールに全学年参加した。 【課題】 図書館可書と教員との連携を密にし、授業で	・可書が全校配置になるとよい。週1,2回とかでも全然違う。 ・本の予算も十分に教育委員会に付けてほしいですね。(収める書架、移動式ラックなども含めて) ・調べる学習は年間1回でも、その機会ができればいい。	①国語・社会等と関連させて、図書館を活用した調べ学習に学年ごとに継続的に取り組む。読書科で身に付けたスキル・思考ツールを他教科でも活用する時間を設ける。 ②江戸川区調べる学習コンクールには、夏休み
共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた調べる指導の充実・エンカレッジルームの活用促進 ・別居交流、交流及び共同学習の充実	①一人ひとりの「ちがいを尊重し、配慮を要する児童」への支援を行うとともに理解教育を実施する。 ②「学校2020L/Gallery」として「ボランティア・マインド」豊かな国際感覚」に重点を置いて取り組む。 ③教職員でエンカレッジルームの運営に当たり、調整	①道徳・学級活動及び特別支援教室(やまぶき)の教員を招き、ミニ研修を年間3回程度実施。 ②総合的な学習の時間、道徳、外国語活動、委員会等を実施。	B	B	【成果】 特別支援教育研修の実施により「やまぶき」の学習内容について知ることができた。 【課題】 「やまぶき」での学習が教室でも生かせるようにさらに連携と理解を深めること。保護者への理解を深めること。	・連携を図るためにも、教員側が、クラスの困り感のある子について、担任一人で抱えず、他の教員の意見をもらい具体的なケース会議等できるといいですね。	①次年度も子供・教員を対象とした「やまぶき」の理解教育研修を行い、連携と理解をさらに深めていく。 ②「学校2020L/Gallery」の徹底を図る。生活・総合・社会と関連させた取り組みを学年で実施する。	
特別支援教育の推進	子どもの健全育成 ・子どもたちの健全育成に向けた取組	①「江戸川区子どもの権利条例」の理解に努め、自分も他者も大事にする子どもを育成する。 ②生活指導委員会・生活指導夕会で情報を共有する。 ③Q-R、子どもアンケートの実施。	①全校児童に「江戸川区子どもの権利条例」を知らせ、学年に応じた指導を行う。 ②毎週月曜日に生活指導夕会を設定し、情報を共有する。 ③年1回Q-R実施、年2回子どもアンケート実施	B	B	【成果】 生活指導夕会で生活指導上の共有ができていた。 1月に「江戸川区子どもの権利条例」について学習し、子どもたちの権利意識(国連)のときの、子供向けの 【課題】 「江戸川区子どもの権利条例」についてこれからもっと知ってもらって、Q-Rの結果を生かした学習	・江戸川区の権利条例を、もっと「子どもの視点」で全ての子ども、すべての年代で理解できる状況を考えていきたいと思います。 ・江戸川区の権利条例(国連)のときの、子供向けの 本もあるの、そういったものを活用するのよと思いません。	①Q-Rについての理解を教職員が深め、その活用をしていく。学級経営に活かせる時期に実施して改善につなげる。 ②「江戸川区子どもの権利条例」について、子どもの発達段階に応じて全学年で学ぶとともに、保護者にも、保護者	
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実 教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	①学校公開に合わせ、学校関係者評価委員会を年4回程度実施。 ②学校関係者評価結果はホームページに公表する。	①学校アンケート保護者回収率90%を目指す。その結果を評議委員会で話し合い、次年度の学校経営に活かす。	B	B	【成果】 年間3回の学校評議員会で貴重な意見をいただくことができ、改善につなげることができた。 【課題】 ホームページの更新を図る。	・現状でもホームページの更新は多い方だと思います。学年によるばらつきをなくすといいたいのではないですか。例えば、学年で学期に1回以上を目途にするくらいで十分ではないでしょうか。ホームページは、個人情報等の制限があるので、作成の時間を増やすより、個々の児童のICT教育の方に舵を取った方がよいと思います。	①次年度の教育課程作成に向けて、行事の見直しを行っている。教員の働き方改革につながり、質の良い教育活動を提供するための改善を進める。	
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	①月1回、定時退勤日(リフレッシュデー)を設定。 ②月の在校時間が5時間以上に教職員が1割(4名)以内になるよう互いに声を掛け合い達成できるように。	①定時退勤職員100%を目指す。 ②「打ちちゃん」結果を参考に、毎月個別に声掛けをする。	B	B	【成果】 時間を意識して働く教員が増えてきた。 【課題】 長時間勤務の教員もまだいるのでさらに働きかけていく。	・業務を減らさない限り無理でしょう。 ・月6時間達成は、毎日6時には帰るくらいではないと達成できないのでは、やった方がいいという業務をやめて		